

# 成人看護学実習

## 実習要項

# 成人看護学実習

## I 実習目標

- 1 急性期にある対象を理解する。
- 2 急性の経過に合わせた看護を考え、実践する。

## II 評価規準（めざす姿）

- 1 急性期の対象を、事前学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。
- 2 根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。
- 3 実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。
- 4 急性期における自己の看護観を述べることができる。
- 5 医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。

## III 単位と時間数及び実習場所

3単位 90時間（ 8：30～16：15 9時間換算×10日 ）

	実習場所	実習時間	実習時期
病院実習	清水病院 (5B・7A病棟、手術室、集中治療室、 救急外来、ストマ外来)	90時間	3年前期・後期

## IV 学習内容・学習方法

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
急性期にある対象の経過や特徴を理解する。	<p>事前学習を通して成人期の発達特性、発達課題、手術における合併症（全身麻酔・腰椎麻酔それぞれ）、生体反応の理解を深め実習に臨む。受けもち患者の情報が事前にわかっている場合は、自己学習の知識と関連させ予め記録を進めておく。</p> <p>&lt;1日目&gt;</p> <p>午前中：病棟挨拶、管理報告後、病棟オリエンテーションを通して病棟の特徴、構造、看護方針を捉え、今後の実習につなげる。</p> <p>11時から手術室に向かう。手術室オリエンテーションを受け、入室方法、手術室の構造、手術見学時の注意点等を確認する。</p> <p>午後：受けもち予定の患者が入院してくる場合は、同意が得られたことを確認後、当日の担当看護師とともに挨拶をする（初日以降でも同じ）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受けもち患者の入院時の様子見学</li> <li>・入院時オリエンテーション、手術前オリエンテーション、術前処置（消化管洗浄、臍処置、保清）の見学</li> <li>・術前訓練と術前指導（深呼吸方法、早期離床の必要性説明、痛みの少ない起き上がり方法など）を看護師とともに実施</li> </ul>	急性期の対象を、事前学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	事前学習 実習記録 I II III IV 1日の実習計画表 面接 ミーティングの発言

	<p>↑パンフレットなど患者に合わせて見やすいものがよい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族の心理状態、社会的背景の情報の収集</li> </ul> <p>入院予定が後日の場合は電子カルテやクリニカルパスからアセスメントに必要な情報収集を行う。</p> <p>→検査データ、予定術式、麻酔方法、基礎疾患、心電図、呼吸機能など</p>		
急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	<p>&lt;2日目以降&gt;</p> <p>朝の管理報告、チームカンファレンスに参加する。それらが終了後当日の担当看護師に挨拶し、本日の目標・計画を発表する。</p> <p><b>*受けもち患者が入院している場合*</b> (術直前の看護援助)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・術前全身状態の観察、心理面の援助</li> <li>・手術室へ向かう患者・家族の援助</li> </ul> <p>手術見学(手術中の看護援助)</p> <p>間接介助の看護師より手術の説明を受けながら見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学、術式・麻酔の方法、手術体位、術中の経過</li> </ul> <p>※気分が悪くなりそうな学生は、手術開始前に看護師に伝えること、または悪くなってしまったら無理せず速やかに報告する。</p> <p>(術直後の看護援助)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインの観察(意識レベルの観察、呼吸状態の観察、血圧・循環動態の観察、体温の観察、創・ドレーンの観察、水分出納の観察、腸蠕動の観察、疼痛・苦痛の緩和など)</li> <li>・生命徴候の把握と判断、患者の生命徴候に合わせた援助、急性期における治療処置の援助、集中治療を受ける患者の援助を実施</li> <li>・手術侵襲による生体反応 →病棟帰室と集中治療室帰室の場合があるが、それぞれに所属する看護師とともに実施</li> <li>・腰椎麻酔の場合は術後1病日目に初期計画発表となるため、手術日までに問題点を立案し、当日の看護師に方向性の相談を済ませておく(手術が午後の場合は午前中に相談する)</li> </ul> <p>術後1病日目(手術翌日)～</p> <p>→バイタルサイン・術後の観察は、1病日目は必ず看護師と実施するが、以降は患者の状態に合わせて担当看護師と調整して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手術侵襲による生体反応を踏まえた観察と援助</li> <li>・早期離床の援助、転倒予防</li> <li>・治療処置に伴う苦痛への援助(術後創傷治癒過程、ドレーン管理)</li> <li>・点滴管理</li> <li>・生活を整える援助(洗面、清潔援助、排泄援助)</li> <li>・退院、社会復帰に向けた援助、指導</li> <li>・援助の前・中・後の観察、援助の振り返り、報告</li> <li>・全身麻酔の場合、立案した問題点の内容・順位を担当看護師に</li> </ul>	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	術前後の患者支援 実習記録 ⅢⅣ 1日の実習計画表 実習状況(調整・出欠席)

	<p>相談する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腰椎麻酔は術後 1 病日目、全身麻酔は術後 2 病日で初期計画発表を行う</li> </ul> <p>手術後に集中治療室へ入室した場合は、翌朝病棟には行かずに直接集中治療室へ出向き、担当看護師の確認、管理報告を受ける。</p> <p>「初期計画発表」について</p> <p>15:00～受けもち患者の術直後までの情報をアセスメントし、立案した看護計画を病棟スタッフとグループメンバーに対して発表する。その後スタッフから助言をもらう。</p> <p><u>朝の申し送り前にコピー2部を当日の指導者さんへ渡しておくこと</u> (日中空いている時間にスタッフ間でみてくれ、集まった助言を初期計画発表後伝えてくれる)</p> <p><b>*受けもち予定の患者がまだ入院していない、もしくは退院して受けもち患者がいない場合*</b></p> <p>→看護師と共に行動する</p> <p><b>【病棟で行動する場合】</b></p> <p>当日の担当看護師とともに術後のケアや処置、離床など、特徴的な外科的看護の実際を学ぶ。</p> <p>朝 9:30～医師、師長、リーダー看護師とともに外科回診が行われているため、学生 1 人につき最低 1 回は一緒に回らせてもらい、診察介助や創部の観察を行う。</p> <p><b>【HCU で行動する場合】</b></p> <p>朝は病棟へ行かず直接 HCU へ出向き、8:30～管理報告に参加する。当日の学生担当看護師を確認する。人工呼吸器管理や精密な in/out バランス管理など、超急性期における看護の実際を学ぶ。</p> <p><b>【救急外来で行動する場合】</b></p> <p>病棟と違い 8:15 より管理報告が始まるため、それに間に合うように早く学校を出発する。</p> <p>当日の学生担当看護師を確認し、管理報告に参加する。</p> <p>救急要請、搬入、処置、必要時入院や手術、家族への対応など、迅速な連携、判断などといった救急看護の役割を学ぶ。</p> <p><b>【ストマ外来で行動する場合】</b></p> <p>病棟で実習を開始し、基本的には受け持ち患者がいない病棟で行動する場合の動きに準ずる。ストマ外来患者の了承が得られたら皮膚排泄認定看護師が病棟に呼びに来てくれるため、病棟の看護師に一声掛けてから一緒に外来へ出向く。</p> <p>ストマを造設し、地域で生活している患者の相談や、ケアの方法の支援の実際について学ぶ。</p> <p>終了後は再び病棟に戻り、担当看護師と行動する。</p> <p>※欠課や欠席は術後の経過に合わせた看護展開が困難となるため、体調管理には十分注意すること。</p>		
--	--	--	--

<p>実施した援助について評価・修正する。</p>	<p>初期計画発表後、助言をもとに対象の術後経過に合わせた看護計画の修正、SOAP から導きだされた看護展開を行う。生体反応を踏まえ看護援助の評価を実施する。</p> <p>生体反応については事前学習も含め基本的な知識は実習記録Ⅱに記載するが、受けもち患者に起きている生体反応を表現するため、術後記録に書き足していく。</p> <p>(ミーティングでそれぞれの受けもち患者に生じた生体反応を発表し合う場面があるので、そのまともになる)</p>	<p>実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。</p>	<p>実習記録ⅠⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの発言 面接 出欠席</p>
<p>急性期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。</p>	<p>1日の実習計画表やミーティングの発言から理解を確認する。 テーマに合わせて学びを表現することで、急性期看護に必要な視点を受けもち患者から見出す。</p> <p>テーマ 初期計画発表終了毎「初期計画発表を終えての気づき」 7日目「急性の経過をたどる成人期の特徴の理解」 8日目「受けもち患者の生体反応」 9日目「受けもち患者の手術後の日常生活の変化」 10日目「急性期看護で学べたこと、考えたこと」(最終日1時間)</p> <p>最終ミーティングでは、実習記録Ⅴを用いて発表する。 急性期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。 →抽象的にならず、受けもち患者との関わりから具体的場面を用いて学びを表現する。</p>	<p>急性期における自己の看護観を述べることができる。</p>	<p>実習記録Ⅴ ミーティングの発言</p>

## V 記録の提出方法

- 1) 実習評価表
- 2) 1日の実習計画 毎日提出
- 3) 実習記録Ⅰ
- 4) 実習記録Ⅱ
- 5) 実習記録Ⅲ (実習共通)
- 6) 実習記録Ⅳ (実習共通)
- 7) 実習記録Ⅴ (実習共通)
- 8) 検温表 (実習共通)
- 9) 受けもち患者の手術見学の視点  
手術見学実習前日までに教員の確認後、手術室へ提出する。
- 10) 成人看護学実習 手術見学後のレポート  
「受けもち患者の手術見学の視点」をあわせてとじ担当教員に確認後、見学後1週間以内に手術室へ提出する。(提出後1週間ごろに手術室へレポートを受け取りに行く)
- 11) 作成したパンフレット(コピー)、資料類

※1)～11)の順に綴じて、指定された日時までに提出する。

※複数例受け持った学生は、1)2)A氏の3)4)5)6)8)、B氏の3)4)5)6)8)、7)9)10)11)の順に綴じて、インデックスで区分けして提出。

成人看護学実習 計画表

※3 日目に全麻の手術患者を受けもつ場合の展開例 (45分/1時間×10日)

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟・手術室オリエンテーション</li> <li>・患者紹介</li> <li>・情報収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回診、処置を通して外科看護を学ぶ</li> <li>・入院時の患者の様子を理解するとともに術前の看護を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受けもち患者の手術術中の見学を通して術中の術式、生体反応や術中の看護について学ぶ</li> <li>・術直後の看護を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後1病日目の患者への看護実践</li> </ul>
記録	実習記録 I	実習記録 I・II 手術見学の視点	実習記録 I・II・III	実習記録 I・II・III
cf				
	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後2病日目の患者への看護実践</li> <li>・病棟ミーティング「初期計画発表」※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後3病日目の患者への看護実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後6病日目の患者への看護実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後7病日目の患者への看護実践</li> </ul>
記録	実習記録 I～IV 手術見学後レポート	実習記録III・IV	実習記録IV	実習記録IV 「生体反応」資料
cf	初期計画発表を終えての気づき (※同じく)		急性の経過をたどる成人期の特徴の理解	受けもち患者の生体反応
	9 日目	10 日目		
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後8病日目の患者への看護実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術後9病日目の患者への看護実践</li> </ul>		
記録	実習記録IV	実習記録IV・V		
cf	受けもち患者の手術後の日常生活の変化	急性期看護で学べたこと、考えたこと		

※受けもち患者の手術日・術後経過により初期計画発表日の変更あり

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
急性期にある対象の経過や特徴を理解する。	急性期を対象を、事前学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	対象理解 倫理観	事前学習 実習記録ⅠⅡⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接	望ましい姿をイメージしながら、急性期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。  2 0	急性期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。  1 0	急性期にある対象の特徴は理解している。  5	急性期にある対象の特徴を理解するための学習が不十分である。  3
急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	実践力 調整力 倫理観	術前後の患者支援 実習記録ⅢⅣ 1日の実習計画表 実習状況（調整・ 出欠席）	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けて、急性の経過に合わせた個別性のある看護計画を立案し実施している。  2 5	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けて、急性の経過に合わせた看護計画を立案し実施している。  2 0	経過に合わせた看護計画を立案し実施している。  1 0	看護計画を立案し実施している。  5
実施した援助について評価・修正する。	実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。	実践力 探求心 倫理観	実習記録ⅠⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接 出欠席	実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。  2 0	実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、対象にとっての効果を振り返っている。  1 5	実施した援助を対象にとって安全・安楽であったか振り返っている。  5	自分の反省や取り組みについて表現している。  3
急性期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。	急性期における自己の看護観を述べることができる。	実践力 探求心	実習記録Ⅴ ミーティングの 発言	急性期にある対象との関わりを通して、急性期看護についての考えを、文献等を利用して表現している。  2 5	急性期にある対象との関わりを通して、急性期における自己の学びを表現している。  2 0	体験や指導者の助言を活かして自己の学びとして表現している。  1 0	体験や指導者の助言のみ表現している。  5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。  1 0	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。  5	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。  3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。  0

実習指導者助言

欠課時間  
( ) 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン